

知って得する医師の話シリーズ75



感染性胃腸炎について

総合診療科部長 田中 裕之

感染性胃腸炎は、なんらかの感染によって、急性の下痢や嘔吐、発熱などを呈する疾患です。原因としては、黄色ブドウ球菌やサルモネラなどの細菌感染症や、ノロウイルス、ロタウイルスなどのウイルス感染症があります。なかでも、冬に流行するのはウイルス性腸炎です。今回はウイルス性腸炎のなかでも、ノロウイルス感染症についてお話しします。

ノロウイルス感染症は、汚染された貝類（特にカキなどの二枚貝）によるものが多いと言われています。秋から春にかけて好発し、汚染された食物が原因で集団食中毒を起こしたり、一人の発症をきっかけに、病院や施設で接触感染によって集団発生したりします。その場合、ウイルスは嘔吐物や糞便などからヒトの手を介したり、粉塵に混ざったりして、ヒトからヒトへ感染します。

潜伏期間は感染後12時間から48時間で、その後、嘔吐、下痢、腹痛などの急性胃腸炎症状を呈します。ウイルスを退治するいわゆる特効薬はなく、脱水などに注意しながら、体からウイルスが排出され自然軽快するのを待ちます。およそ4~5日程度で軽快しますが、症状軽快後も1週間程度は糞便中にウイルスは残存していると言われ、その時期に別な患者へ感染する可能性もあり、注意が必要です。

では、みなさんが気をつける事は何でしょうか？ まずはちゃんと加熱調理されたものを食べるということです。およそ85~90℃90秒以上でウイルスは感染力を失うと言われていますので、しっかりと中まで火を通して食べるようにしましょう。

もしも発症してしまった場合、本人だけでなく周囲の人間も注意が必要です。注意点は3つ。

1. 食事の前や、トイレの後は必ず手を洗いましょう。（2回以上の手洗いが推奨）
2. 下痢や嘔吐がある場合、食品を扱うのはやめましょう。
3. 胃腸炎患者に接する場合は、糞便や吐物を適切に処理しましょう。

吐物や下痢などの処理は次亜塩素酸ナトリウム（商品名：キッチンハイター）が推奨されています。アルコールは無効です。ノロウイルスは乾燥すると容易に空中を漂い、その後ヒトの口に入り感染が成立しますので、吐物は乾く前に処理しましょう。吐物が飛び散らないように静かにペーパータオルなどで拭き取り、その後前述の次亜塩素酸ナトリウムを浸すようにして床を拭き取ります。具体的には水1Lにハイター20mlを溶かして使用します。

以上、ノロウイルス感染症について説明しました。もし嘔吐下痢症を発症し医療機関を受診する際は、最初にスタッフへご連絡いただくと助かります。病院には様々な方が受診されており、感染すると重症化する方もおられます。当院では、嘔吐下痢症の方は初診時、別室での対応を行っています。感染を拡大させないため、患者さんを守るための処置ですので、ご理解のほど、宜しくお願いいたします。

大規模災害対応訓練を実施しました

1月30日（火）、今回で10回目となる大規模災害対応訓練を実施しました。

今回は、「南さつま市内において、局地的な大雨により土砂崩れが発生。崖下の家屋数軒が倒壊し住民が負傷した。」という想定で、南さつま消防署が負傷者の薩南病院への搬送訓練を、薩南病院が負傷者の受入訓練及び院内トリアージ訓練、並びに負傷者の病棟搬入に係るベッド状況確認・確保訓練などを実施しました。

訓練には、消防署員15名、薩南病院職員74名が参加し、負傷者を迅速かつ確実に治療するための手順や連携の再確認を行いつつ、全体の流れも滞らせないように、皆真剣に、一所懸命に取り組みました。

今回の訓練を通して、大規模災害が発生した場合の対応を、より具体的に理解することができ、更に改善すべき点についても各自が気付いたと感じております。

昨年は、台風による豪雨災害が発生し多くの方が被災されました。また、先日の草津温泉白根山の突然の火山噴火でも多くの方が負傷されました。災害はいつどこで起こるかかわからないということを念頭に、有事の際においても安定した医療を提供するための訓練を今後も積み重ね、南薩地域の災害拠点病院として、地域の皆様の「安心・安全」に貢献できるように努めてまいります。



△患者受入



△災害対策本部



△3次トリアージ

感染防止対策地域連携カンファレンス

医療安全・院内感染防止対策委員会

「感染管理」とは医療施設内での『感染症の発症を防止するための環境改善や教育指導』などを含めた包括的管理の事を意味します。

更に厚生労働省は自施設だけでなく、地域における感染管理活動を推進し、『感染防止対策地域連携カンファレンス』の開催を義務付けています。

そこで、感染制御医師、感染管理認定看護師が従事する当院は、枕崎市・日置市・南さつま市にある感染管理取得病院の4施設や伊集院・加世田保健所と連携を図り、感染症や抗生剤使用状況、医療者の感染防止遵守状況についての会議や各施設の活動状況などの情報共有を行い、『地域全体で「感染管理」に取り組もう！』と努力しています。

この活動により、良好な感染管理のネットワークが構築され、平時からの感染管理の情報共有ができています。今後も、このネットワークを拡充する事で、病院だけでなく福祉施設を含む地域全体での「感染管理」が行えるように努力していきます。



平成29年度「入院・外来患者満足度調査」結果

当院では、「患者さんに、より満足していただける病院」を目指すため、毎年「満足度調査」を実施しております。

今回は、「外来」が平成30年1月22日（月）・25日（木）、「入院」が1月22日（月）から26日（金）に調査を実施し、外来患者さん151人、入院患者さん70人からご回答をいただきました。ご協力いただきましてありがとうございました。

患者さんからの主な意見は次のとおりでした。

【外来患者さんからの主なご意見】

- 洋式トイレを増やして欲しい。○トイレの水の流れが悪かった。
- エコーを受ける部屋が寒かった。
- 家族等の送迎があるからいいが、できなくなったら不安。
- 職員の方にはいつもお世話になり、感謝しています。

【入院患者さんからの主なご意見】

- 本を読むには部屋が暗い。部屋を明るくして欲しい。○部屋が寒い。
- 冬場は加湿器が欲しい。○丁寧な対応で、安心して任せられます。

皆様からいただいた貴重なご意見につきましては、病院内で十分な検討を行い、今後ともより一層、安心・快適で満足いただける医療の提供に努めてまいりたいと思います。

セクション紹介（放射線部）

診療放射線技師 久保ゆかり

放射線部は外来と病棟との中間にあり、5人の診療放射線技師が日々業務を行っています。

放射線部の入り口近くに一般撮影室（いわゆるレントゲン撮影）があります。簡便、かつ様々な疾患に対応できるので最も多くの患者さんがいらっしゃいます。11月に機器を更新し、壁紙を貼り替えて明るくしました。この他にマンモグラフィ・CT・透視・血管造影・RI・放射線治療などの検査や治療で私たちは患者さんにお会いしていますが、その際、必ず何かしらの協力をお願いしています。例えば胸の検査では、横隔膜を下げて肺を広げ、心臓を見やすくするために息を吸ってもらいます。そして呼吸によるブレを抑えるために息を止めます。マンモグラフィでは、小さな病変もくっきり見やすくするために乳房をぎゅーっと押さえます。もしも検査や治療に、つらさや不安がある場合はどうぞご相談下さい。患者さんの負担が少しでも減らせるよう、私たち技師も工夫を凝らしお手伝いしたいと思います。

また、RI検査室も1月に機器を更新して、より快適に検査ができるようになりました。



松実会砂像づくりをしました



12月14日（木）病院正面の玄関横に砂像がお目見えしました。

松実会の12月の活動の一環として作成したもので、2018年の干支（戌年）にちなみ、大河ドラマ「西郷どん」と狩りのお供をしていた愛犬「ツン」を主役に、縁起の良い絵馬としめ縄が表現されています。患者さん、南さつま市役所の方々、そして当院スタッフも加わり、皆で協力・連携しながら心を込めて作成しました。



乳腺外来開設のお知らせ



当院では、本年4月から、月1回ではありますが、鹿児島大学病院乳腺外科の協力により、乳腺外来を開設することとなりました。健診に行った方が良いとはわかっているにもかかわらず、なかなか重い腰が上がらないという方も多いのではないのでしょうか。そのような方々の検診受診の一助となればと思います。ぜひ、ご利用下さい。また、乳腺外来では検診だけではなく、乳がんをはじめとする乳腺疾患の診断や治療を行います。乳腺の病気には乳がん以外にも様々な種類があります。乳房のしこりやくぼみ、乳頭からの分泌物など何か気になることがあれば、乳腺外来を受診してください。

診療日は下記のとおりとなっております。8月以降の診療日は決まり次第改めてお知らせします。

なお、健診・診療については、原則として「予約制」としますので、事前にご予約のお電話をお願いいたします。

◎乳腺外来診療日（4月～7月）

4月：第2木曜日（4月12日）の午前中 5月：第4木曜日（5月24日）の午前中

6月：第2木曜日（6月14日）の午前中 7月：第3木曜日（7月19日）の午前中

◎予約電話先 薩南病院外科外来 （代）0993-53-5300

○当院へのお問い合わせ

【所在地】 〒897-1123 鹿児島県南さつま市加世田高橋1968-4

【TEL】 0993-53-5300

【FAX】 0993-53-6764（事務室）、53-5436（地域医療連携室）

薩南病院の理念

県立薩南病院は、中核的病院として地域医療に貢献し、住民に信頼され、安心して医療を受けられる病院を目指します。

方針

- 1 職員は、常に「患者さんのための病院」であることを自覚し、安全に充分配慮して医療サービスを提供する。
- 2 職員は、常に研修・研究し、医療の質の向上に努める。
- 3 職員は、常に「和」をもって、より充実したチーム医療を実践する。
- 4 県立薩南病院は、常に他の医療・保健・福祉機関と連携し、効果的で最善の医療を提供する。